豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会　R８（２０２６）.１１.１６　　No.１６
豊岡市のホームページにもアップしています。
豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ



次期学習指導要領等に向けた 審議まとめ⑥

「情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現」について

１　なぜ「情報活用能力」の抜本的改訂が必要なのか？

・AI 時代の基盤となる力:2040 年代に向け、誰もが AI やデジタル技術を使って価値を創造する時代になります。単なる操作スキルだけでなく、技術の「賢い使い手」「イノベーションの創り手」を育てます。

・リスクへの対応:SNS での偽情報・誤情報、アルゴリズムによる思考の偏り、過度な依存などの負の側面に立ち向かう「情報モラル・メディアリテラシー」が不可欠です。

・３つの構成要素:

〇活用（中核）:デジタル技術を使って課題を解決し、新たな価値を生み出す力。

〇適切な取扱い:リスクを判断し、ルールやマナーを守って行動する力。

〇特性の理解:コンピュータや AI の仕組み（科学的特性）を理解する力。

２　学校種ごとの教科・領域の大きな変化

従来の「学校ごとの指導格差」や「小・中・高の接続不足」を解消するため、教育課程が大きく再編されます。

・小学校:「総合的な学習の時間」を改編し、「情報の領域」を追加（「探究の領域」と「情報の領域」の２領域構成へ）。体験的な活動を通じて基本操作から AI の取り扱いまでを学びます。

・中学校:技術・家庭科から家庭科を独立させ、現在の技術分野を新教科「情報・技術科」として独立・拡充。プログラムやネットワークの仕組み、データ活用を深めます。

・高等学校:「情報科（情報Ⅰ・情報Ⅱ）」の内容を強化。文理を問わず、全員が AI・データサイエンスを社会で使いこなせるレベル（リテラシーレベル）まで高めます。

【名称の統一】

小・中・高校で一貫した系統性を持たせるため、小・中学校の「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」へ名称変更されます。

３　「コピペの調べ学習」から脱却する「質の高い探究」

ネット情報の単なる切り貼りや、学校から与えられたテーマのなぞり学習（検索学習）からの転換を図ります。

・「テーマ探究」×「マイ探究」のバランス:

〇テーマ探究:学級・グループ共通の課題に協働で取り組む。

〇マイ探究: 子ども一人ひとりの「好き」「得意」「疑問」を深掘りする。

・知識習得と探究の「往還」:探究を行うことで各教科の知識が真に理解され、深まった知識がさらに探究を面白くします（丸暗記と探究は相反するものではなく、互いを高め合います）。

・多様な探究スタイル:論文・検証を行う「研究系」、現場で動く「行動系」、作品を生み出す「創作系」など、多様なアプローチを認めます。

4　先生方を支える国の条件整備と機動的サポート

変化の速い IT 技術に対応するため、先生個人の負担にならない仕組みが整えられます。

・教材のタイムリーな更新：国が動画付きデジタル教材等を開発し、最低でも年に１回程度アップデートして提供します。

・研修と免許のサポート：中学「情報・技術科」や高校「情報科」の専門教員確保に向けた免許講習や、全教員向けの研修コンテンツを拡充します。

・ICT 環境の整備：３Ｄプリンター等の備品整備や PC 教室の環境更新を計画的に進めます。

5　明日からの授業で意識すること

・「調べる」の先にある「自分の問い」を引き出す：ネットで検索して終わりではなく、「なぜそう思う？」「どう改善できる？」といった個人の考え（マイ探究の芽）を大切にしましょう。

・デジタルツールを「文房具」として使わせる：発表・メモ・話し合い・作品づくりなど、日常のあらゆる場面で子どもたちに端末を試行錯誤させることが、情報活用能力（活用）の第一歩になります。

次期学習指導要領等に向けた審議のまとめについて（報告）、「情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現」についての概要をまとめています。2028 年度から移行期間となります。おおまかにつかんでおくことが大切です。詳しい内容は、文部科学省のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞでご確認ください。